

# はなえくぼ江南便り No.59

令和8年3月1日 発行  
 (株) ニーノコーポレーション  
 扶桑町大字芥藤字緑223  
 (0587) 93-7833

## 『節分』

節分とはいえ人に物を投げることはできない、はなえくぼ江南のおしとやかな利用者さん達。今年の節分は鬼に豆を投げることができたのでしょうか？答えは鬼からプレゼントをもらって仲良く海苔巻きを作りました。海苔は噛み切れなくなってきたので、薄焼き卵で巻きました。鬼を遠ざけるより、味方につけることにより厄払いをするみたいです。平和的解決がはなえくぼらしいです。

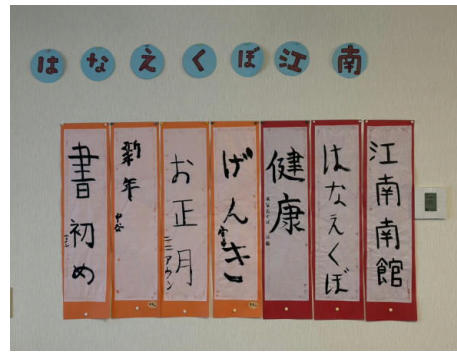


## 『認知症早期発見の可能性』

今の認知症診断は認知機能テスト、MRIやCTなどの画像検査が主流で、さらに専門的に検査をするなら、アミロイドPET検査、髄液検査を実施することが多いです。認知機能テストは手軽に実施できますが早期発見には弱く、他の検査は施設が限定的だったり高額だったり決して手軽に検査は出来ません。どうしても何かしらの異変を感じてから発見されることが多いです。

ところが最近の研究で血液検査で血中のp-tau217（リン酸化タウ217）を調べることで、認知症の発症時期を予測できるのではないかとされています。可能になれば健康診断などの機会に検査ができ、認知症発症前から治療が開始でき、認知症の発症を抑えることが出来るようになります。何としても実を結んで欲しい研究です。期待しましょう。

## 年末年始ギャラリー

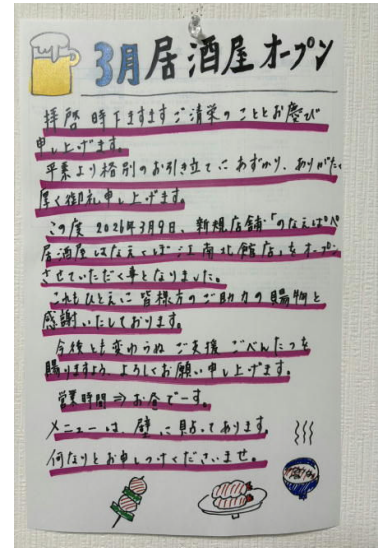


## 『立ち食いうどん』

ある日の昼食後、なんだか落ち着かない利用者さん達。どうやら昼食がたりなかったよう。乾麺のうどんが有る。ということで、急遽立ち食いうどん店がオープンです。キッチンカウンターで横並びでうどんを啜っている空間がとても素敵で思わず写真に収めたと、当日のスタッフ。本当に素敵な場所だなあと思いました。



## 予 告



## 『気持ちに寄り添う対応を』

認知症の症状では、症状を脳の機能低下が原因の症状（中核症状）と精神状態が原因の症状（BPSD）に分けて考えることが大切です。中核症状は、脳の働きの低下によるもので、ご本人の努力で改善できるものではありません。そのため、できないことを正そうとするより、できないことを補って安心して過ごせる環境を整える視点が重要になります。物の配置を分かりやすくしたり、目印を付けたり、声かけは短く具体的にすることで理解されやすくなり、混乱や不安は軽減されます。また、残っている力を活用することで役割を感じ、自信を持つことで落ち着きにつながります。

BPSDは、不安や不快感などのマイナスの感情の表れとされています。またBPSDの背景には、喉の渇き、空腹、便秘、身体の痛みを伴う体調不良や、周りの音、一緒にいる人、空調などの環境要因が隠れていることも多く、まずは原因を考えることが欠かせません。言動を否定せず、気持ちに寄り添う関わりが安心感を生みます。「困った行動」ではなく「困っているサイン」と捉えることが、認知症の人に安心感を与えるケアへの第一歩となります。認知症ケアの本質は安心感を与えることなのです。

今回は、はなえくぼ扶桑便りです。どうぞお楽しみに！



グループホームはなえくぼ扶桑  
 丹羽郡扶桑町大字柏森字辻田398  
 (0587) 91-0110  
 グループホームはなえくぼひくみ  
 犬山市大字五郎丸字郷瀬川17番地1  
 (0568) 68-8096

グループホームはなえくぼ江南  
 江南市小杵町長者毛西132番地  
 (0587) 52-3808  
 はなえくぼのホームページ  
[www.gh-hanaekubo.com](http://www.gh-hanaekubo.com)  
 ブログも時々更新しています